


# 一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成30年 5月14日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第1号	質問議員	12番	渡辺 良孝 
件名	官民連携によるオリーブの生産地づくりを			
要 旨				
<p>オリーブの生産については、日本では香川県の小豆島が産地として歴史的にも有名である。そして国内でオリーブの栽培は、茨城県が北限とされていた。しかし、近年では福島県いわき市（プロジェクト組織）で取り組んでいる。そのような生産地の状況下で、最近健康志向から食用に使われるなど、オリーブの需要が高まってきている。関東地方でもオリーブの栽培面積が増えている。しかし、国内生産の自給率はおよそ1%未満でほとんど輸入に頼っている。</p> <p>オリーブの栽培は、観光資源や地域おこし、更に、生産者自ら販売をする6次産業化への繋がりが期待できる。このように、さまざまな視点からオリーブが着目され、栽培を始める人が増えてきている。</p> <p>特に、オリーブは、みかんの生産地の気候風土のもとで栽培が可能であること。収穫する実は苦みがあり、シカやイノシシが食べない（葉は食べる）ため、鳥獣被害には比較的強いこと。みかん栽培より作業が軽減できることなどを鑑み、遊休農地や耕作放棄地対策としても、今後、当町においてオリーブの生産地づくりを積極的に進めていくべきではないかと思いい質問をする。</p> <p>1. 当町では、山北町特産物生産直売連絡協議会の加入団体に呼びかけ平成25年度からオリーブの苗木の植栽をはじめてきた。平成26年3月議会では所管の総務環境常任委員会で、オリーブの栽培は年間降雨量や酸性が強い土壤だと難しいのではないかと、との質問もあった。町では、「今後、年間降雨量、日照時間、土地の酸性度、平均気温条件など、農業技術センターの技術指導を受けていく」との説明であった。既に技術の指導を受けてきたと思う。当町においてオリーブ育成の環境の評価はどうか。</p>				

2. 当初は20名で始めてきた。しかし、現在では42名、耕作本数も250本から1200本体制に増えてきているとのことである。ここまで5年経過し、町も実績を踏んできた。オリーブの生産地として定着させていくには、行政の支援をもとに生産者の熱意・やる気を高める環境を整えることが肝要である。今後、町は支援・育成のため、どのように関わり、取り組んでいくのかその姿勢を伺う。

3. 国の出先機関である関東農政局は、最近のオリーブ栽培の動きを受け、オリーブの生産者を応援する独自プロジェクトを始動した。との報道があった。国の支援や、補助制度など具体的に示されているか。

4. オリーブの木は一度植えれば千年実が採れると言われている。その栽培は次世代に続く持続可能な事業として注目度は高い。今年度は5次総合計画前期基本計画の見直しの年である。「特色ある農業振興」としてオリーブの栽培が長期に亘り定着する道筋として、5次総合計画後期基本計画の策定にあたり、その位置付けをしっかりとしておくべきではないか。